

ペットバードのための獣医学的ケア

はじめに

ペットバードは、犬、猫、そして人間と同じように定期的な健康診断が必要です。鳥は犬や猫とは違って、重症になるまで病気の兆候を隠す傾向があります。なので、ペットバードにとって、定期的な獣医師による健康診断が病気の予防には特に重要になります。

最近、新しくペットバードを入手されましたか、またはそれを検討されていますか？今すぐ、お住まいの地域で経験豊富な鳥類獣医師を見つけましょう。それにはAssociation of Avian Veterinarians(鳥類獣医師協会)のWebサイトが、最適です。www.aav.orgにアクセスし、「Find a Vet(獣医を探す)」へのリンクをたどってください(「Country」から「Japan」を選んで、その下にある「CONTINUE」をクリックしてください。)。ここでは、お住まいの地域で鳥に特別な関心を持っているすべての獣医師が見つかります。鳥類獣医師を見つける他の良い方法は、地元のペットショップ、お近くの獣医大学校、または地元の他の獣医師に尋ねてみることです。

新しく迎えた鳥の健康診断

鳥類獣医師協会(AAV)は、新たに迎えた全ての鳥がまず最初に健康診断を受けることをお勧めしています。多くの深刻な感染症でさえ、鳥の場合、見た目ではわかりません。あなたの新しいペットが感染症を持っている、あるいは病気であることが分かれば、早期発見による的確な診断と最適な治療を受けられる可能性がより確実になります。新しいペットバードの健康状態を良好に保つことが、これから始まる長く素晴らしい友情への道へと続きます。

新しく迎えた鳥の検疫

家に他の鳥がいる場合は、最初に隔離することなく、新しい鳥を群れに入れしないでください。たとえ新しい鳥が健康的に見えていても、その鳥の隔離と検疫は飼い主が現在飼育中の他の鳥を守るためにできる最も大切なことです。新しく入手した鳥はすべて、入手後少なくとも6週間は個別に飼育することをお勧めします。この間、鳥が容器やとり木を共有しないようにし、鳥を触ったりケージを掃除した後は手を洗ってください。多くの空気感染ウイルスは、セントラル空調システムまたは暖房システムによって部屋から部屋へと広がる可能性があるため、可能であれば、新しい鳥を個別空調の部屋に置いてください。検疫中は、新しい鳥を注意深く観察し、異常が見られる場合は獣医師の診察を受けてください。

鳥類の健康診断の項目

問診

獣医師とそのスタッフは、飼い鳥と来院の目的について質問します。鳥をどこで、いつ入手したのか、鳥の年齢と性別(わかっている場合)、食事とサプリメント、ケージと居住環境(写真が役立ちます)、過去の健康上の問題、他の鳥への最近の接触について尋ねられます。飼い鳥が病気または怪我をしている場合、獣医師はあなたが気付いた症状とそれらがいつから始まったかを知りたいでしょう。新しい獣医師に初めて会う場合は、過去の医療記録、薬、レントゲン写真を持参することをお勧めします。

最初の診察

飼い鳥は最初にキャリーの中に入れてそのまま様子を観察します。その間飼い鳥は警戒し、周りに注意を払っているでしょう。しかしその間も鳥が羽を膨らませていたり、目を閉じていたら、これはあなたの鳥が病気の可能性があるという警告サインです。これら以外の深刻な健康問題の重要な手がかりは、呼吸困難、発声障害、全般的な衰弱、および歩行困難があります。

処置と保定

いつもではありませんが、ほとんどの鳥は検査のために体を保定する必要があります。鳥類獣医師は様々な処置と保定方法に精通しています。そして常に飼い鳥が最小限のストレスで全ての検査を終わらせることを目指しています。保定方法は、個々の鳥のニーズと状況に合わせて調整されます。私達もそうである様に診察中の快適さ、最小限の恐怖、痛みのないことをいつも目標にしています。診察中に飼い鳥を落ち着かせ、恐れることがない様に訓練する方法もあります。獣医師は、飼い主と飼い鳥に的確な選択肢、方針、およびその鳥にあった方法を教えてくれるでしょう。

身体検査

身体検査では、デジタルスケールを使用して鳥の体重を測定し、くちばしからつま先まで慎重に検査します。獣医師は、飼い鳥の目、耳、鼻孔、くちばし、口腔、後鼻孔(上顎の軟口蓋にある切り目)、首、そのう、胸筋、翼、羽毛、腹、肛門、脚、足、脊椎、および尾腺を評価します。心臓、肺、および気嚢は聴診器を使用した聴診によってチェックします。足環番号またはマイクロチップが存在する場合、それをカルテに記録します。



aav.orgにアクセスするか、Facebookで
facebook.com/aavonlineにアクセスしてください。

ペットバードのための獣医学的ケア

診断

鳥種、年齢、性別、病歴、検査結果に応じて、獣医師は、鳥の健康状態をさらに確認するために、次の診断検査の1つまたはそれ以上を提案する場合があります。

血液検査(全血球数および生化学検査)

獣医師は、あなたの鳥の総合的な健康状態を確認するために、血液検査を推奨する場合があります。一般的な血液検査の1つは、赤血球、白血球、および血小板の量と形態を評価する全血球計算(CBC)です。この検査は、貧血の有無および全身感染または炎症の病態を判定するために行われます。もう1つの一般的な血液検査は生化学検査です。これは、鳥の腎機能、肝機能、血糖、血中タンパク質、カルシウム、電解質を検査します。

糞便検査

鳥の排出物の検査は、鳥の健康に関する多くの手がかりをくれます。排出物は、血液、未消化の食物の証拠と同様に、体積量、色、および状態の異常について外観上の検査をされます。直接塗抹検査、浮遊法、グラム染色、細胞診などの検査法を使用して、寄生虫、異常な酵母や、異常な細菌叢の糞かをさらに診断できます。

クラミジア症検査

鳥クラミジア症の検出には、いくつかのスクリーニング検査が利用できます。この細菌性疾患の原因病原体である *Chlamydia psittaci* (クラミジア-シッタシ) は、鳥と人の両方に感染します。人間の場合、この病気はオウム病と呼ばれ、いろんな症状の中でも非定型肺炎を引き起こす可能性があります。乳児、高齢者、または免疫系の障害が起きている人に対する感染リスク増加の証拠はありませんが、これらの人間と接触している鳥については、徹底した診断検査を検討する必要があります。クラミジアに感染した鳥の中には病気になる鳥もいれば、無症状で病原体を保有する鳥もいます。詳細については、「鳥のクラミジア症とオウム病」というタイトルのAAV配布資料を参照してください。

性別の決定

ほとんどのオウム種は雌雄同型であり、これはオスとメスの見た目が同じであることを意味します。これらの種については、数滴の血液を検査することで性別を判断できます。あなたの鳥がオスかメスカを知ることは、医学的理由だけでなく行動上の理由からも重要です。

微生物学検査(グラム染色、細菌および真菌培養)

飼い鳥が病気の場合、獣医師は細菌や酵母の感染症を確認するためのグラム染色や、または後鼻孔(口の上部)、総排泄腔(肛門)、傷口、または他の患部から採取したサンプルを培養することを勧めることがあります。異常な細菌が培養された場合、感染症に対してどの薬が最も効果的かを判断するために、さらに検査が行われます。

ウイルス病スクリーニング

飼い鳥は、ポリオーマウイルスやオウム類の嘴・羽毛病(PBFD)など、いくつかかかり易い伝染性のウイルス性疾患があります。あなたの飼い鳥が特徴的な臨床症状や検査結果が見られる場合は、獣医師からこれらの疾患の追加の検査を勧められるでしょう。また既に飼育されている鳥の群れに新しい鳥を追加する時にも、検査をお勧めします。

レントゲン(X線)検査

もし飼い鳥が病気または怪我をしていたら、獣医師は、心配される場所を評価するためにレントゲン(X線)検査をすることを勧めるでしょう。レントゲン写真により、獣医師は鳥の気道、内臓、骨格構造を調べることができます。撮影する体の部位に応じて、獣医師は、鳥に過度のストレスをかけずに高画質な映像を撮影する為、短時間の鎮静または麻酔を勧める場合があります。

予防接種

残念ながら、鳥が感染しやすいウイルス性疾患の多くに対するワクチンはまだ開発されていません。ただし、特定の鳥種で市販のワクチンがいくつかあります。あなたの飼い鳥に適応される予防接種があるかどうかについて獣医師に相談してください。

定期健診

家族の一員である犬や猫を年に一度動物病院に連れて行くことが習慣となっている飼い主でも、飼い鳥にも獣医師の定期的な検査が必要だと知らないかもしれません。実際、鳥の病気の症状はより微妙で、自宅では簡単に気付けないため、鳥を定期的に検査することはさらに大切です。

鳥類獣医学は、常に進歩、変更、発展している分野です。毎年の健診により、鳥類獣医師の最新の知見を「羽を持つ友人」との生活に反映させることができるのです。



ペットバードのための獣医学的ケア

AAV: 1980 年以來鳥類の健康管理の基準を設定

鳥類の診療は、鳥を治療し入院させるために特別に設計整備された施設、広範囲な訓練、高度な技術を必要とする類まれで非常に特殊な分野です。鳥類獣医師協会 (AAV) は、この特別な知識を獣医師に提供し、鳥の健康に関する最新情報を提供するために設立されました。AAVは、鳥の医学に関する総会を毎年開催し、査読されたJournal of Avian Medicine and Surgeryを発行しています。また、毎年AAVは鳥類保護活動への寄付を行い、鳥類医療の理解を深める研究を後援しています。

さらに詳しい情報のパンフレット

鳥に関する詳細については、動物病院で以下のAAV クライアント・エデュケーション・パンフレットを入手してください。

- 鳥のクラミジア症とオウム病
- ペットバードのための獣医学的ケア*
- コンパニオンバードの基本的なケア*
- 正常な行動と異常行動
- 自宅でのニワトリ飼育
- デジタルスケール
- 毛引き
- 鳥の餌
- ケガ予防と救急医療
- ペットバードの産卵管理
- コンパニオンバードの病気の兆候*
- コンパニオンバードのための紫外線ライト
- 動物病院を受診するのはいつですか?*
- ニワトリにおける動物由来感染症*

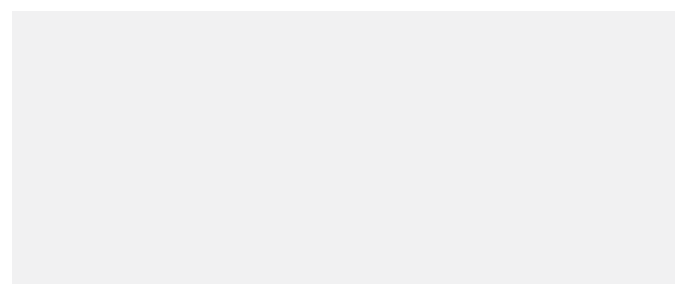
*多言語で提供。他のすべては現時点で英語のみ提供。

オンラインリソース

FacebookでAAV(www.facebook.com/aavonline)をフォローしてください。ペットバードの飼い主のための素晴らしいヒントや最新ニュースをお届けしています。Twitter(@aavonline)やYouTubeにもAAVのアカウントがあります。

AAVのウェブサイトwww.aav.orgでは、検索ツールを使って世界中の鳥類獣医師を見つける事ができます。基本的な鳥の飼育方法など、さまざまな資料も提供しています。今すぐ、ウェブサイトをご覧ください!

免責事項:この翻訳された情報は北米の読者のために書かれました。地域および特定の国の規則および規制は異なる場合があります。また、説明されているすべての手順および詳細がお住まいの国や地域で許可されているわけではありません。読者は、提供された情報を読んで実行する前にお住まいの地域の法律が遵守されていることを確認するようお勧めいたします。



aav.orgにアクセスするか、Facebookで facebook.com/aavonlineにアクセスしてください。

© 2019

鳥類獣医師協会 (AAV)

PO Box 9, Teaneck, NJ 07666